馬耳東風

令和3年5月21日武田社（モデルナ社）とアストラゼネカ社の新型コロナワクチンがファイザー社に続き特例承認された．モデルナのワクチンは，ファイザーと同じmRNAワクチンで生物学的製剤基準上も同一の「コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）」である．したがって，ワクチンの本質は同じである．治験での発症を防ぐ効果もファイザーが95.0%，モデルナが94.5%とほぼ同じである．異なるのは用量と接種間隔で，ファイザーは1回0.3m*l*を2回，通常3週間の間隔で，モデルナは1回0.5m*l*を2回，通常4週間の間隔で接種する．また，保存温度は，ファイザーが−60℃～−90℃であるのに対してモデルナが−20℃である．そしてファイザーは希釈してから接種するのに対してモデルナはそのまま接種できるのでやや利便性に優れている．

さて，アストラゼネカのワクチンは，SARS-CoV-2のスパイクたん白質の遺伝子を非増殖性サルアデノウイルスに組み込んだもので，ワクチンのタイプとしてはウイルスベクターワクチンと称されている．生物学的製剤基準での名称は「コロナウイルス（SARS-CoV-2）ワクチン（遺伝子組換えサルアデノウイルスベクター）」である．治験での発症を防ぐ効果は平均70%とmRNAワクチンと比べると低い．ごくまれに血栓ができ死亡例も報告されている．アストラゼネカのワクチンは，1回0.5m*l*を2回4～12週間間隔で接種する．保存温度は，2～8℃であるので通常の冷蔵庫が使えるという長所がある．

新薬が承認された後，同じ効能・効果を持つ薬が承認申請された場合，最初に承認されたものと効能・効果が同等またはそれ以上でなければ普通承認されない．発症予防率が70%と95%で同等と言えるのか首をかしげたくなる．さらに不思議なことにアストラゼネカのワクチンは承認されたにもかかわらず，予防接種法に基づく接種対象ワクチンには指定されておらず，わが国での使用のあり方について引き続き検討するとされていることである．そして，このワクチンを台湾とベトナムに224万回分無償で供与し，国際貢献したとのことである．自分の国で積極的に使用しないワクチンを他国に贈与することが真の国際貢献と言えるのか，疑問の声もあると聞く．

一方，高齢者のワクチン接種の予約で混乱しているニュースを聞くたび，われらの狂犬病予防ワクチン接種がスムーズに実施されているのにと苦言を呈したくなる．いずれの事務も厚生労働省と地方自治体が取り扱っており，なぜうまくいかないのか不思議である．もちろんワクチン数が限定されていることや接種対象数が多いので狂犬病のノウハウが生かされなかったのかもしれないが．高齢者の私は，固定電話，携帯電話，パソコンを駆使し自分の住む市でのワクチン予約にチャレンジしたが，取ることができなかった．そこで比較的楽に予約できた大手町の集団接種会場でモデルナのワクチンを受けた．モデルナのワクチンが無尽蔵にあるかのように，職場や大学での集団接種も行われ始めたが，すぐにワクチン不足となり予約が中止された．本来なら，供給数に応じた計画を立てるべきであろう．今後，64歳以下の人々，特に若者へのワクチン接種を進めることが感染抑制に役立つはずであるので，確実なワクチン確保とスムーズな接種体制が構築されることを祈念する．

（平）